

「おねしよが治らない…」

カイロプラクティックオフィスアイダ

院長 会 田 成 臣



【患者】

小学校二年生（八歳）。

男の子。

過去に大きな病歴や怪我はなし。

【症状】

多いときは週に何度も。小学2年生になり本人もその問題に対してかなりデリケートになっていく様子で、最近はおねしよをすると母親にわからないよう一人で片づけているとのこと。

母親としてもその様子を見るのが辛くなんとかしてあげたいが、どうしたら良いのかわからず悩んでいる状態。頻度が多いときは週に何度もということでしたが、先週は少量を一回のみ。

男の子の母親も当院で治療を受けており、四年間ほど悩まされていた症状に前回（一週間前）の治療で改善が見られ、治療後に「息子のおねしよもなんとかかりますか？」とのことで一緒に来院。

PCRTの症例報告や研究でもあるように、母親と子どもには密接な関係があり、母親の感情や抱えている問題、ストレスの情報（エネルギー）が無意識に子どもに伝わ

り、子どもがそれを敏感に感じ取ることによって様々な症状が出るということがわかつている。

今回も長年悩まされていた母親の問題が解決したことにより、子どもが受ける情報（エネルギー）に変化が生じ、子どもの症状にも多少の変化が表れたと考える。

【検査】

最初に神経反射を使った筋力検査と下肢長検査で、患者にも反射による身体の変化が体感できるようハード面の検査を行う。

おねしよに関しては、デリケートになっている子ども気持ちを考え、おねしよの治療だという事は本人に伝えないでほしいとのことだったので、本人には症状について

一切触れず、術者のイメージでPCRTの言語神経反射を使い検査を行った。

【治療】

《1度目の切り替え》

まず、ハード面の神経のアンバランスを正常に切り替える。

次に本人には告げず、言語神経反射で症状に関する検査を行う。

その結果、おねしよに対する身体の緊張反応が

見られたので、さらに検査を行う。

すると経絡に関するエネルギーブロックがあり、そこに潜在的な感情ストレスが関係していることがわかった。

感情には「排除」というキーワードで身体が反応したので、これを影響がでないイメージで経絡と合わせ切り替える。

《2度目の切り替え》

切り替えた後、症状に対する検査を行うと再び反応がでた。

同じ方法で検査すると経絡エネルギーブロックに「充実」という感情で反応。

五感情報での検査の結果、これは学校での図工の授業に関係するものだった。話を聞くと今はそれが学校で一番楽しいとのこと。

「充実」といったプラスの感情でも高まりすぎると、それが自律神経に影響を及ぼすことが最近の研究でわかっている。プラスの感情を敢えて抑えるのは不自然なので、溢れた充実感を友達に分けてあげるようなイメージで経絡と合わせ切り替える。

切り替え後、言語神経反射にて症状の確認を行うとまた反応がある。